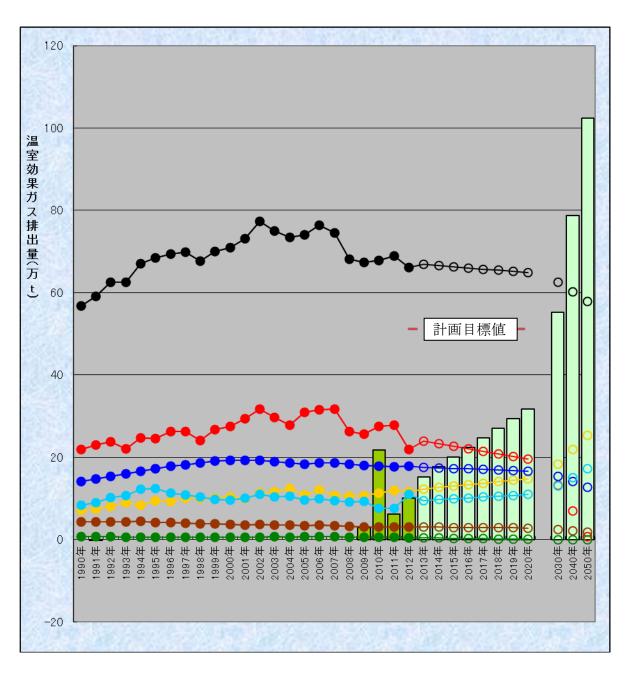
安曇野市域の温室効果ガス排出量

2012 年時点における推計・将来予測

最新版の"市・県"の統計書データの入力が終了した時点

温室効果ガス排出量〈CO2 換算〉(t)

1990 年	1991 年	1992 年	1993 年	1994 年	1995 年	1996 年	1997 年	1998 年	1999 年
567,128	591,571	625,592	626,257	671,290	684,390	694,334	699,431	676,971	700,961
2000年	2001年	2002 年	2003 年	2004 年	2005 年	2006 年	2007 年	2008 年	2009 年
710,296	730,624	773,603	750,418	735,159	741,341	763,511	745,022	681,959	674,266
2010年	2011年	2012 年	2013年	2014年	2015 年	2016 年	2017年	2018年	2019 年
678,669	688,978	660,629	668,516	665,721	662,926	660,131	657,337	654,542	651,747
2020 年	2030年	2040 年	2050 年	注 1)黄色セルの年は、既存データによる推計値 緑色セルの年は、将来予測値。					
648,952	625,059	602,020	578,981	2)最新の知見・データにより過去の排出量の値を変更する場合があります。					
				3)表の値には、森林の吸収分は含まれておりません。					



- ・「安曇野市地球温暖化対策実行計画」の推進に関連し、統計書などに記載のある「世帯数」 や「登録自動車台数」といった既存の統計データより、1990年から現在※までの安曇野市 域における温室効果ガスの排出量を推計しました。※最新の統計データがある年
- ・「安曇野市地球温暖化対策実行計画」において、平成 20 年度比 25%以上の温室効果ガス排出量削減を目標としています。この目標を達成するためには、平成 32 年度の排出量を 51.2 万 $t-CO_2$ までに抑えることが必要です。現在の平成 32 年度の将来予測値は 64.9 万 $t-CO_2$ であるため、より一層の温室効果ガス排出量削減の推進が必要です。
- ・平成20年度以降の部門別の傾向としては、3次産業及び家庭から排出される温室効果ガス排出量が増加しています。原因として、大型店舗や深夜営業の増加、世帯構成人数の減少等が考えられます。